

平成27年度

決算報告

皆さんに納めていただいた税金は、この一年間でどのように使われたのでしょうか。一般会計を中心にお知らせします。

▼問い合わせ先
財政課 財政係

決算概要

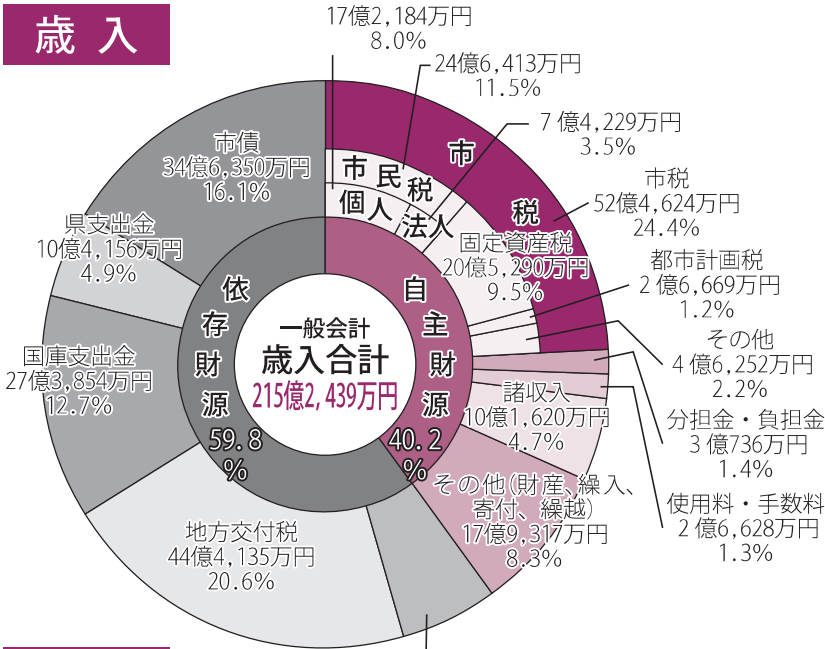
歳入

一般会計の歳入総額は、215億2,439万円で、前年度比2億3,239万円の増となりました。歳入のうち最も多いのは、市税の52億4,624万円で、全体の24.4%を占めています。また、地方交付税は、44億4,135万円で、全体の20.6%を占め、市税とともに歳入の柱となっています。

歳出

一般会計の歳出総額は、206億1,689万円で、前年度比2億6,908万円の増となりました。内訳では、普通建設事業費が62億2,634万円で、新庁舎等整備事業や新焼却施設建設事業などの大型事業が完了年度となったことから、前年度比4億8,207万円の増となりました。また、繰出金が15億7,354万円で、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険特別会計への繰出額が増加し、前年度比5,044万円の増となりました。公債費は市民公募債の一括返済が終了したため、15億2,718万円で、前年度比2億325万円の減となりました。

歳入



平成27年度 実施した主な事業

- 新庁舎等整備事業
(市庁舎、図書館、市民交流センター)
24億752万円
- 新焼却施設建設事業
16億6,936万円



市立小諸図書館内観「すみれちゃんのへや」読み聞かせの様子

事業名等	事業費
都市再生整備計画事業 ※相生坂公園や市庁舎周辺の駐車場整備等	2億2,584万円
小・中学校施設維持管理事業	2億3,373万円
新図書館建設準備事業	1億253万円

事業名等	事業費
被災農業者農業経営維持特別対策事業	1億4,724万円
市単道路・交通安全通学路整備事業	3億376万円
プレミアム付商品券発行事業	7,579万円
新火葬場建設負担金 ※佐久市長土呂にて、平成28年4月供用開始	6億2,800万円

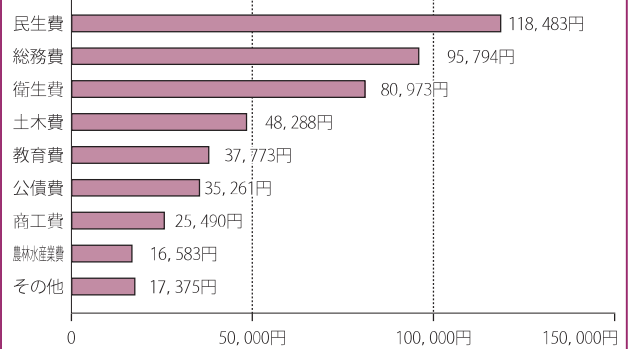
事業名等	事業費
地域医療体制整備事業	9,050万円
非常備消防費運営費	7,268万円
市営野球場改修工事	3,727万円
二ホンジカ等活用研究事業 ※野生鳥獣商品化施設の整備、平成28年度稼働	6,019万円

主な特別会計・企業会計決算状況

会計名	歳入決算額	歳出決算額
特別会計		
国民健康保険事業	56億2,928万円	55億5,490万円
後期高齢者医療	4億1,032万円	4億791万円
介護保険事業	36億5,780万円	35億2,800万円
農業集落排水事業	2億7,132万円	2億6,225万円
小諸公園事業	1億4,248万円	1億2,348万円
水道事業	収益的収支 10億2,941万円 資本的収支 5億9,003万円	8億7,936万円 8億61万円
企業会計		
下水道事業	収益的収支 15億2,972万円 資本的収支 6億9,768万円	12億9,861万円 12億7,747万円

※企業会計では、資本的収入が支出に対して不足する場合には、減価償却費などの企業内部で留保されている資金などの補てん財源で補てんするものとされています。

歳出を市民一人当たりには換算すると476,020円



平成27年度決算に基づく財政健全化判断比率4指標と公営企業資金不足比率

地方公共団体は、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するため、財政状況を共通の方法で表すよう、次に示す指標の算定及び公表が義務付けられています。

実質赤字比率 連結実質赤字比率

黒字のため
数値は
ありません

一般会計や特別会計の赤字額の、標準的な収入規模に対する割合を示すものです。黒字のため健全な財政運営が行われていることを示しています。

実質公債費比率

10.0%
※県内19市中14番目に
低い数値

市の借金返済の、標準的な収入規模に対する割合を示すものです。早期健全化基準は25%であり、現在の借金返済額が少ないことを示しています。

将来負担比率

36.4%
※県内19市中8番目に
低い数値

市が将来負担すべき負債の、標準的な収入規模に対する割合を示すものです。早期健全化基準は350%であり、将来財政を圧迫する可能性が低いことを示しています。

公営企業会計 資金不足比率

資金不足が
ないため
数値はありません

公営企業会計（水道や下水道など）の資金不足額の割合で、経営状況の悪化の度合いを示すものです。数値がないため、健全な運営が行われていることを示しています。